



3-1

琵琶湖に眠る水中遺跡

琵琶湖の水辺や湖底において、約80件の遺跡が発見されています。これらの水中遺跡は、琵琶湖の水辺環境とともに歩んできた人々ならではの暮らしと文化を知ることができる貴重な文化遺産です。

1. 水中遺跡とは

人々は琵琶湖の水と大地の恵みに恩恵を受ける形で、2万6千年前の後期旧石器時代から湖辺に住み着き、以来、各時代を通じて琵琶湖との関わりのなかで独自の文化と歴史を形づくってきました。その人々の営みの痕跡は、水辺や湖底にたくさんの水中遺跡として残されています。その内容は多種多様で、貝塚や港跡、城跡、集落跡などがあり、遺跡の成因は地震による沈下、あるいは水位の上昇により水没したことが考えられます。

2. 針江浜遺跡

高島市新旭町針江沖にあるこの遺跡では、弥生時代前期の集落跡や柳などによって構成された埋没林とともに、地震の液状化現象による噴砂の痕跡が水面下約2.7m付近で見つかりました。さらに、この遺跡は、現在の湖岸より沖合約200m付近まで広がり、大規模な地震によって水中に没したと考えられています。



写真3-1-1 針江浜遺跡調査風景

文化財保護課 田中 稔